



## 京都市立高等学校「総合的な探究の時間」研究会

講演会開催(9月27日) 講演会動画をご案内します。

「総合的な探究の時間」研究会は、高等学校で展開する「総合的な探究の時間」をはじめとした探究的な学びの在り方の研究や育成したい資質・能力の伸長の不断の検証等を通し、生徒の主体的な探究活動における諸課題を究明し、その成果を他校種も含め広く普及していくことで探究活動全体の発展を推進していくことを目的として、令和3年に設立されました。各校から担当者が月に1回集まって研修や意見交流など行っています。当コンソーシアムもオブザーバーとして参画しています。

### 講師：岡本 尚也 氏（一般社団法人Glocal Academy 理事長）

1984年、鹿児島県に生まれる。慶應義塾大学理工学部卒、同理工学研究科修了後、ケンブリッジ大学にて物理学博士号を取得。その後、オックスフォード大学にて日本学修士号を取得。ケンブリッジ大学在学中の研究結果がNature Materials等、世界トップジャーナルに論文が掲載された。帰国後、2016年より現職。客観的なデータ分析や事例をもとに、最適化された選択や手段を提供し、成長を続ける人や組織の支援を行っている、東京大学先端科学技術研究センター先端教育アウトリーチラボアドバイザー、2018年米国国務省事業 International Visitor Leadership Program (IVLP) メンバー。



90分の講演を3つの内容に分割し、主な講演内容を記載しました。動画にもチャプターをつけました。

#### 1. 「探究的な学びの意味と意義」(27分)

- ・講師紹介 (0:00～)
- ・「総合的な学習の時間」と「総合的な探究の時間」の違いとは。(3:50～)
- ・何のために探究的な活動を学校で行うのか。(5:51～)
- ・生徒に「期待」と「機会」を与える。自己肯定感が高まる。(12:48～)
- ・教科学習との相互補完による意欲、理解度の向上。(17:28～)
- ・答えがない問いの醍醐味。(19:16～)
- ・「総合的な探究の時間」の本質とは何か。(21:48～)
- ・研究、探究は「おもしろい」からやる。(23:13～)

#### 2. 「探究活動における全国的狀況」と「進めていくコツ」(25分)

- ・全国の状況 (0:00～)
- ・人文、社会科学系の課題。(自然科学系と比べて) (1:49～)
- ・一部の教員に依存している探究活動を組織化するには。(3:24～)
- ・探究活動の負担感を分析する。(11:14～)
- ・生徒も教員も目を肥やす。外部との連携を強化する。(14:48～)
- ・中高の接続。多くの他人事を知り、自分事となるものを見つけていく。(18:21～)
- ・探究的な学びは、学ぶプロセスを養成していくこと。(23:01～)

#### 3. 「探究活動での陥りやすいポイントとその対処方法」(38分)

- ・探究活動で使われる「用語」の定義づけを明確にして共有する。(0:00～)  
研究テーマ 問い リサーチクエスチョン 仮説 など
- ポイント① 大人に付度した課題研究になってしまう。(6:35～)
- ポイント② 抽象度の高い「マジックワード」を使ってしまう。(12:43～)
- ポイント③ 探究活動が浅く終わってしまう。(20:52～)
- ポイント④ 研究方法の記述が曖昧になってしまう。(25:48～)
- ポイント⑤ サンプルングを意識していないインタビューやアンケートになってしまう。(28:14～)
- ポイント⑥ 論理が飛躍してしまう。(29:12～)
- ポイント⑦ 正しい「引用」をしていない。(31:39～)
- 「全体のまとめ」(35:40～)  
生徒も教員も目を肥やす。  
期待と機会を与える。  
生徒が見えていない問いを与える。  
生徒が答えられない問いを探究方法を提示する。  
一緒に試行錯誤する。  
楽しむことが大事。

